

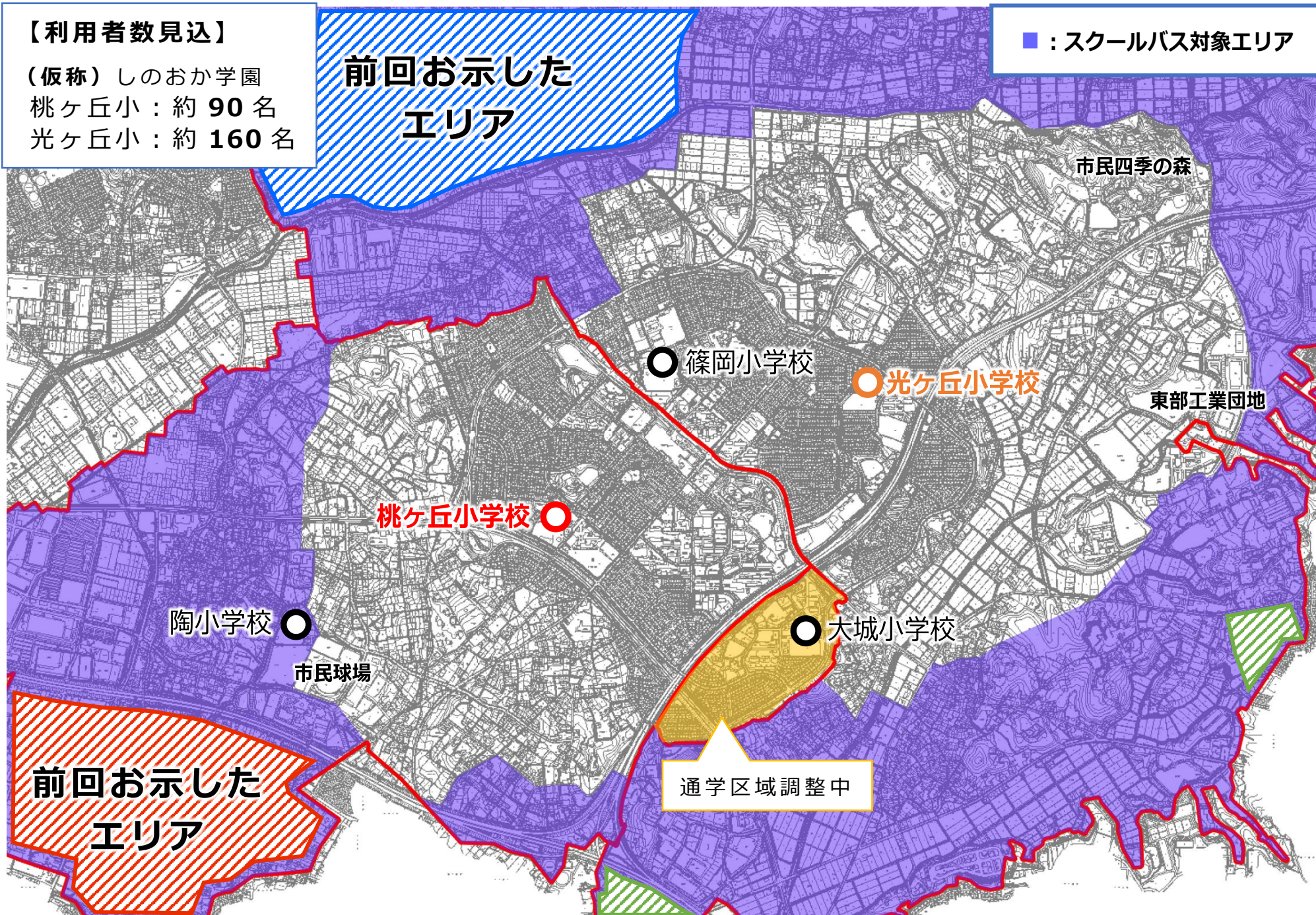
篠岡地区学校再編計画に伴う第1期学校再編におけるスクールバス《R7.8 見直し案》

【利用者数見込】

(仮称) しのおか学園
桃ヶ丘小：約 90 名
光ヶ丘小：約 160 名

前回お示した
エリア

■：スクールバス対象エリア



1. スクールバスの対象について

- ・実際の通学距離が2km 以上となる児童に加え、地域の特性（学校までの高低差等）に配慮したスクールバスの対象エリアを設定

■地域の特性への配慮について

- ・篠岡地区は他地区に比べ、起伏に富み、特に池之内や上末、下末地域において、学校までの高低差が 50m を超える箇所も存在することなどから、一律の通学距離に加え、地域毎に対象エリアを検討しました

2. スクールバスの運行方法について

(1) 運行日

- ・学校の登校日、学校行事日等（運動会や出校日等）は運行
- ・休日や長期休暇（夏季休み等）は運休

(2) 運行台数

- ・5～6台（マイクロバス～中型バスを想定）
- ・その他、少人数地区用等に大型バンタイプの車両の導入を検討

(3) 運行本数

- ・登校時 1便
※概ね午前7時50分～8時20分までに登校できるようダイヤを設定
- ・下校時 **最大3便（部活動のある日のみ3便）**
※学年や部活動により下校時間が異なることを考慮

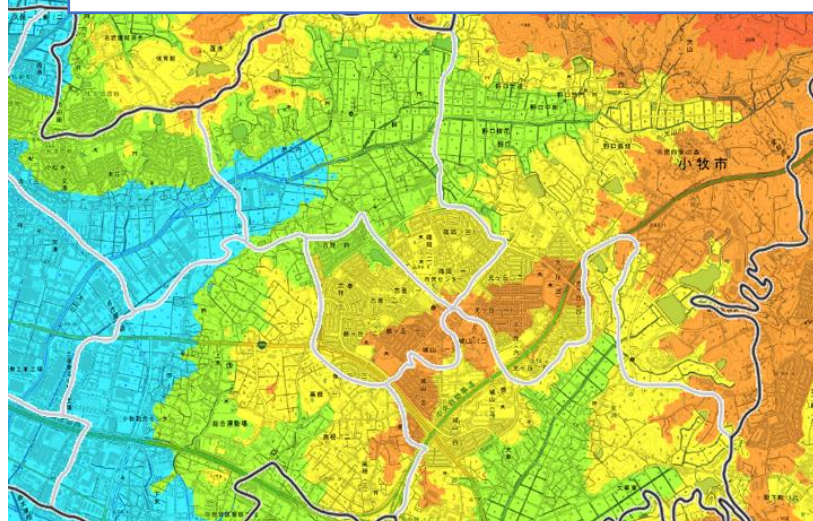
(4) 乗降場所（バス停）

- ・利用者数の大幅な増加が見込まれるため、原則、**道路上へのバス停の設置はせず**、複数の児童が安全に待機、乗降できる**地域の集会施設や市の所有地などに設置**します
※登校時の降車場所は学校を中心に引き続き調査、検討
- ※自宅から乗降場所までの移動は児童の安全と乗り遅れ防止のため、最寄りのバス停までは利用希望者同士で、集団で移動するなど、おおよそ通学団規模でのピックアップを検討

3. スクールバスの利用方法について

- ・令和8年夏頃に対象エリア内の小学生（1～5年生）とR9 入学予定の未就学児を持つ世帯に対し、スクールバスの運行ダイヤやバス停の一覧等と併せて、バスの利用申請書を送付します

篠岡地区の土地の高さ(国土地理院ホームページより)



例. 対象者の多いA地域での運行イメージ

A地域バス停①(7:30) → A地域バス停②(7:40) →
学校(7:55) → A地域バス停③(8:05) → 学校(8:15)

例. 対象者の少ないB地域と隣接するC地域での運行イメージ

B地域バス停①(7:25) → C地域バス停①(7:40) →
学校(7:50) → C地域バス停①(8:00) → 学校(8:10)

篠岡地区の学校再編に関して、よくいただくご質問

◆質問1

なぜ令和9年4月に第1期の再編を行うのですか？

◇回答1

子どもたちが多様な考え方に触れ、社会性を養いながら成長していくためには、**一定の学校規模が必要**だと考えています。

今日の児童生徒数の減少状況に鑑みると、可能な限り早期に学校再編を行う必要があり、**最短で実施が可能な令和9年度**としました。

◆質問2

第2期の学校再編は具体的にいつから行うのですか？

◇回答2

第2期については、**第1期の取組の検証に一定の期間が必要**であること、また学校の建て替えに**最低でも6年以上**かかることを前提に、今後の児童生徒数の推移等から、**学校の適正規模（1校あたり12学級～）**を下回る状況や建替えが必要になるほどの老朽化が見込まれた場合に実施します。

◆質問3

学校の名前はどのようなのですか？

◇回答3

現時点では、利用する校舎が分かりやすいよう、（仮称）として「**しのおか学園（現学校名）**」と表記していますが、今回の学校再編は「**しのおか学園**」としてのリスタートであることから、**既存の学校名を使用しない**新たな学校名を検討しています。（例、**しのおか学園 第一／第二小学校** など）
詳細は「第4回篠岡地区の学校を考える会」の中でお知らせしてまいります。

◆質問4

体操服などの学校用品や制服（ネクタイ、リボン）等は現在のものが使用できますか？

◇回答4

現在、市と各小中学校において、家庭の負担にならない方法について、他市事例等も含め、検討しておりますが、原則、既存の学校用品は再編後の学校でも使用できるよう調整を進めております。

◆質問5

児童クラブはどのようなのですか？

◇回答5

学校再編後も従来通り1小学校単位での1児童クラブの配置とするため、学校再編に併せて、児童クラブも再編されることになります。また、再編後も校舎内で運営を行うことを前提としています。

◆質問6

再編後の学校跡地はどのようなのですか？

◇回答6

学校は、スポーツや防災など地域の重要な拠点であることから、その機能維持のため、原則、体育館やグラウンドは残していく必要があると考えています。
ただし、校舎等は、多額の維持管理費をかけてまで転用する施設の計画が無いのであれば、原則解体し公共施設に係る経費の縮減に努めていきたいと考えています。

学校再編に関するQ&Aはホームページでも公開しています

https://www.city.komaki.aichi.jp/admin/soshiki/kyoiku/kyouikusoumu/303/shinooka_gsaihen/48603.html



【保護者向け】 篠岡地区学校再編計画（案）

～しのおか学園構想～

○背景

篠岡地区では、篠岡小学校（明治42年）と、篠岡中学校（昭和22年）の開校後、長らく1小学校1中学校体制でしたが、桃花台ニュータウンの開発等に伴う児童生徒数の急増に対応するため、分離開校を繰り返してきました。

しかし、全国的な少子高齢化の影響に伴い、桃花台地区を中心に人口減少傾向が強まり、各学校の児童生徒数は大きく減少し、令和7年現在、学年1学級（クラス）の学校が複数見られ、令和15年には**すべての小学校**が1学年1学級となる見込みです。

加えて、一部の学校施設においては築年数60年を経過するなど、建て替えを検討する時期がすぐそこまで来ています。

小学校	令和7年度						令和15年度					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
篠岡小	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1
桃ヶ丘小	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1
陶小	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
光ヶ丘小	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1
大城小	1	2	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1

中学校	令和7年度			令和15年度		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
篠岡中	2	2	2	1	1	1
桃陵中	4	3	4	2	2	2
光ヶ丘中	3	3	2	2	2	2

○しのおか学園構想とは

こうした現状や歴史的な背景を踏まえ、篠岡地区における学校再編においては、篠岡一帯を一つの学びの場（**しのおか学園**）にとらえ、地域の特色やこれまでの学校区の枠を超えて、篠岡地区の小中学校の連携を強化し、一貫した教育理念のもと、義務教育9年間の連続した学びの充実を目指します。
また取組にあたっては、**段階的な再編**とし、まずは**既存の校舎を利用した再編を早期に実施**します。

第1期再編

現在の5小学校、3中学校のうち、**桃ヶ丘小、光ヶ丘小、桃陵中、光ヶ丘中**の校舎を活用し、**2小学校、2中学校**に再編します。再編時期は**令和9年4月**を予定しています。

第1期 再編後の児童生徒数・学級数の推計（R9年度）

<小学校> 1学級あたりの平均児童数：30.2人

(仮称) しのおか学園	1年				2年				3年				4年				5年				6年				合計	
	人数	男	女	学級数	人数	男	女	学級数	人数	男	女	学級数	人数	男	女	学級数	人数	男	女	学級数	人数	男	女	学級数	人数	学級数
桃ヶ丘小	83	45	38	3	69	37	32	2	67	32	35	2	84	47	37	3	99	49	50	3	118	65	53	4	520	17
光ヶ丘小	61	31	30	2	79	39	40	3	79	43	36	3	100	41	59	3	85	45	40	3	94	56	38	3	498	17

<中学校> 1学級あたりの平均生徒数：33.6人

(仮称) しのおか学園	1年				2年				3年				合計	
	人数	男	女	学級数	人数	男	女	学級数	人数	男	女	学級数	人数	学級数
桃陵中	130	70	60	4	117	56	61	3	123	64	59	4	370	11
光ヶ丘中	105	47	58	3	126	65	61	4	131	56	75	4	362	11

※ 人数は特別支援学級の児童生徒を含む
※ 学級数は特別支援学級を除く
※ 小学校の全学年及び中学校の1年生は35人学級、中学校の2・3年生は40人学級で算出

第2期再編

第1期再編後の児童生徒数の減少状況等を勘案しながら、現在の**篠岡小、篠岡中**の敷地内に**1小学校、1中学校**の体制とあわせて、「**小中一貫校**」の新設を検討します。